

ベッドの下に
こんなエグいの
隠しちゃって
カワイイじゃん

あま〜

おお
結構耐えるな
喘ぐの我慢
してんの？

意外と頑固
だよな〜笑
もっと気楽に
楽しめよ

秘密にするって
約束しただろ？
レイコ

ふ〜ん…
ふ〜ん…
ふ〜ん…

ウイン
ウイン
ウイン

どうよ？
一人でするより
ずっとイイだろ？

ん
あま〜
あま〜
あま〜

ふん
ふん
ふん

お互い
気持ちよくなれりゃ
それでいいじゃん？



俺たちが
教えてやるよ

あま〜



ごめんね…
てっちゃん…
ちゃんと
言うことを
聞いておれば…

はっ
はっ

おっ
おっ

確認の電話
するから！

ごめんなさい…
あなた…
こんなの
耐えられない…

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ



テツヤ
たくましく
ママのことを
守るんだぞ

パパ
どこかいっ
ちゃうの？

うん…それに
今回は少し時間が
かかりそうだから
ママの言うことを
ちゃんと聞くんだぞ

レイコを
手に入れる男が
羨ましいな…
嫉妬しちゃうよ

最後までふざけて
ほんとに意地悪
なんだから…
私一生テツヤ
だけを見守って
生きていくから

はは…
レイコ…
やっぱり君は
頑固だな…

おっ
いった笑
声ヤベー
動物かよ？

おっ
おっ
おっ
おっ

グググググ

あなた...

ぬぽん

ガク
ガク
ガク

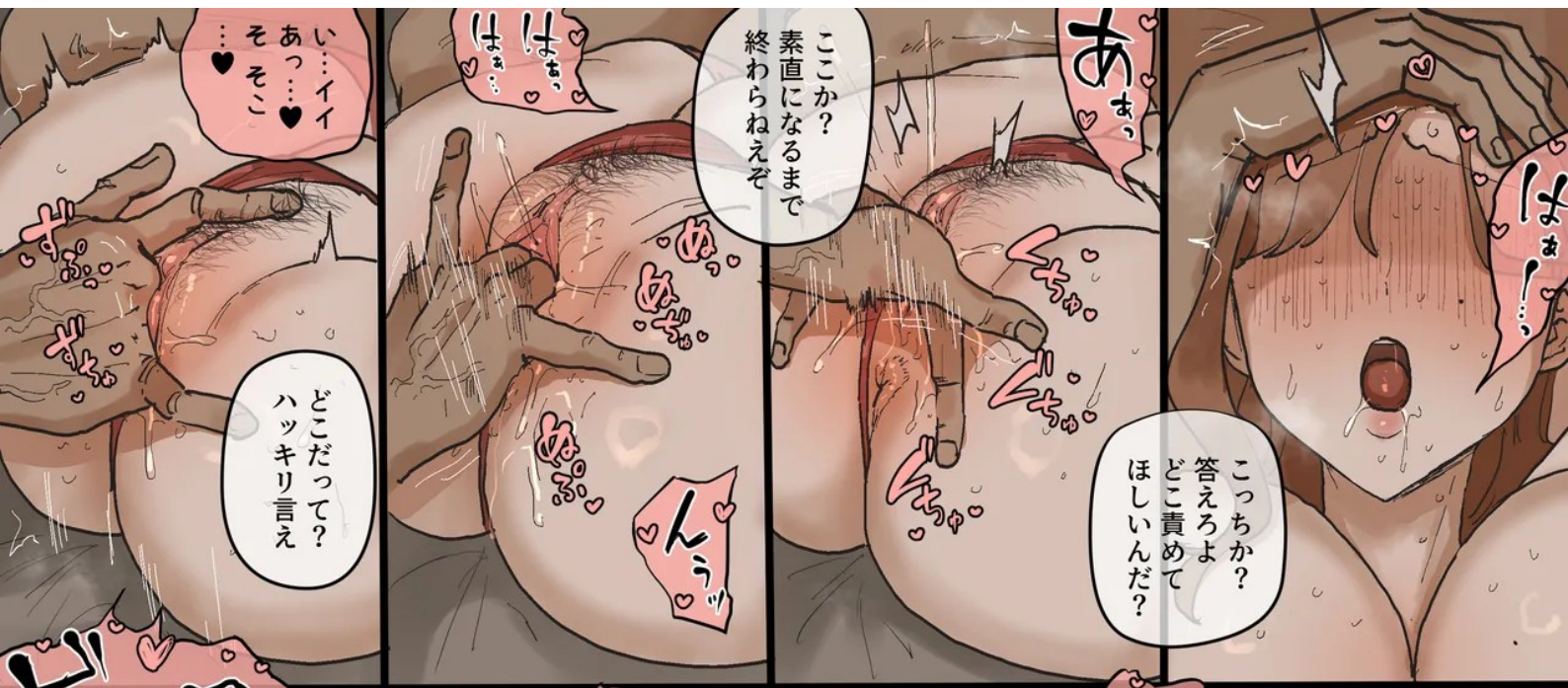
うあ...ちよ
ちよっと...
今いった
ばかりなのに
ダメ待って

あん

うわ...キツ
このマンコ
すっげー

レイコ先生の
弱点はどこかな
ここかな？

すっ
すっ



い...イイ
あ...
...そこ

ここか?
素直になるまで
終わらねえぞ

あま...

はま...

どこだつて?
ハッキリ言え

こつちか?
答えろよ
どこ責めて
ほしいんだ?



お...

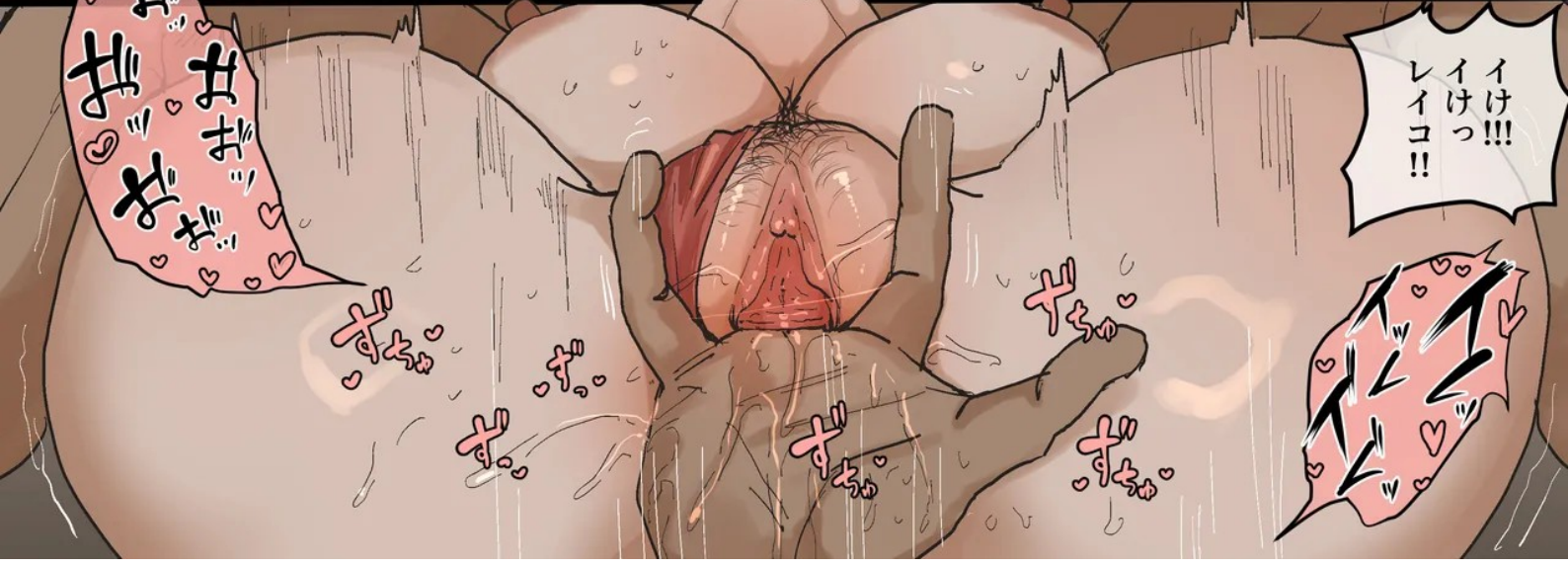
ああ...
そこ...
好き

お...

おここか?
ん?ここが
感じるのか?

あ...

うえ...
上のほう...
そこ...
あ...



お...

イけ!!!
イけっ
レイコ!!

お...

クソっ…
こんな上物マンコ
生でぶち犯してえ

あ…
マジ最高

あ

生ハメは俺専用な
てめえらの精液が
混ざるなんて
ごめんだし

こっちも
啜えろ

ははは

あ

あ

全身オナホじゃん
こんな体思いつきり
雑に扱ってこそだろ

うわっ…
先生のおっぱい
柔らかく
すぐイキそう…

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ





もう...無理...

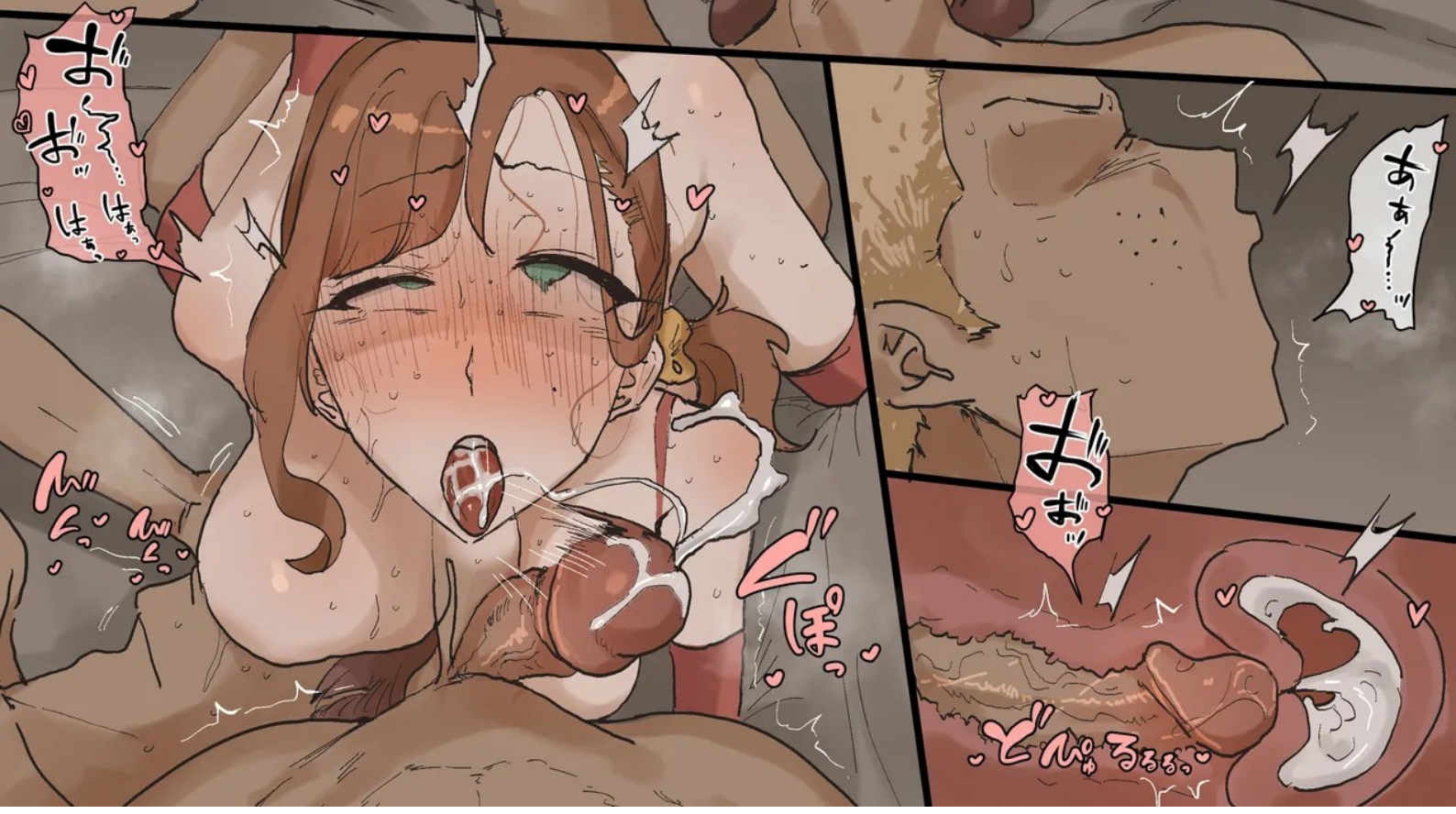
あぁっ 射精る!

あ

あ

全部 溶けちゃいますよ これ以上は...

射精すぞ! マンコ締めろ



すす...

あ

あ

ほ

どん...るる...







母さん!!

キュン
キュン
キュン

もう朝?!

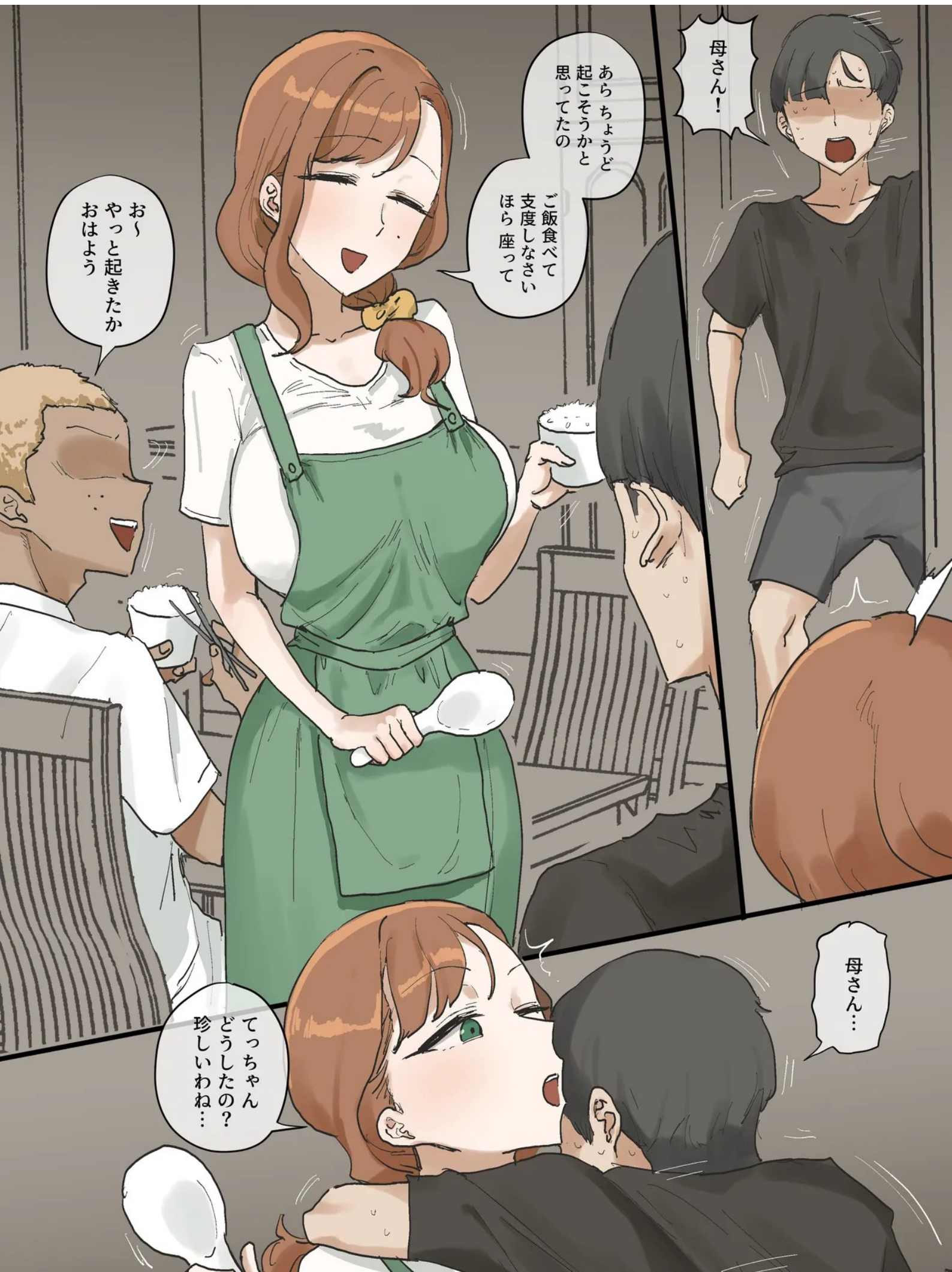


母さん
ダメだ!!

クソッ!!
馬鹿みたいに
寝ちまつてた!!

最悪な
夢だ!

ダメだ!!



母さん！

あらちょうど
起こそうかと
思ってたの

ご飯食べて
支度しなさい
ほら座って

お
やっ
と起
きた
か
お
は
よ
う

母さん…

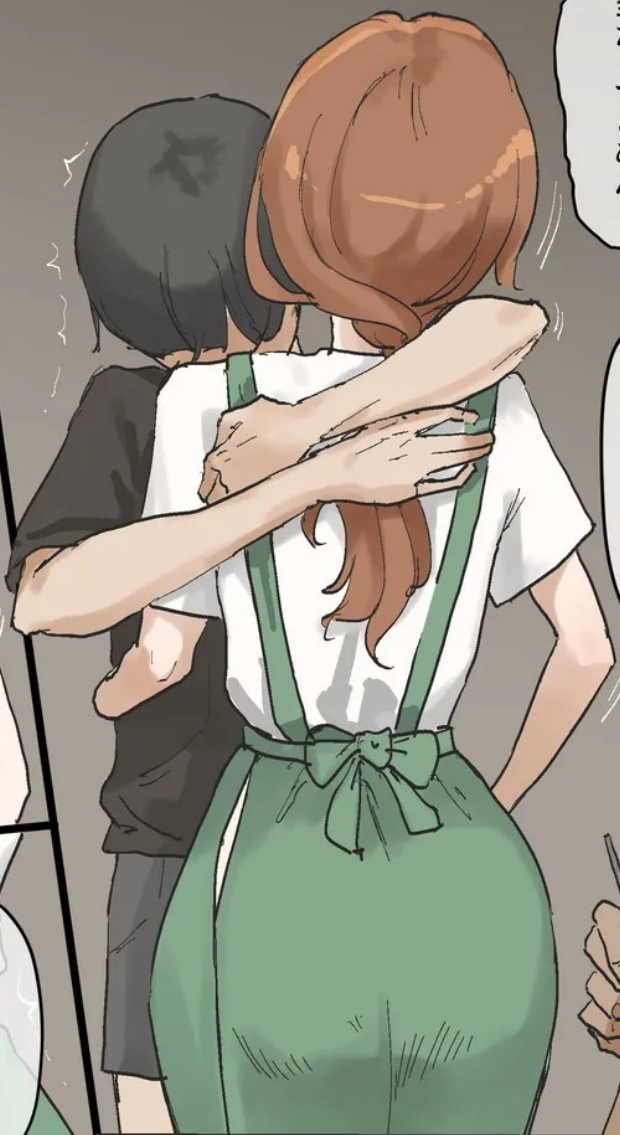
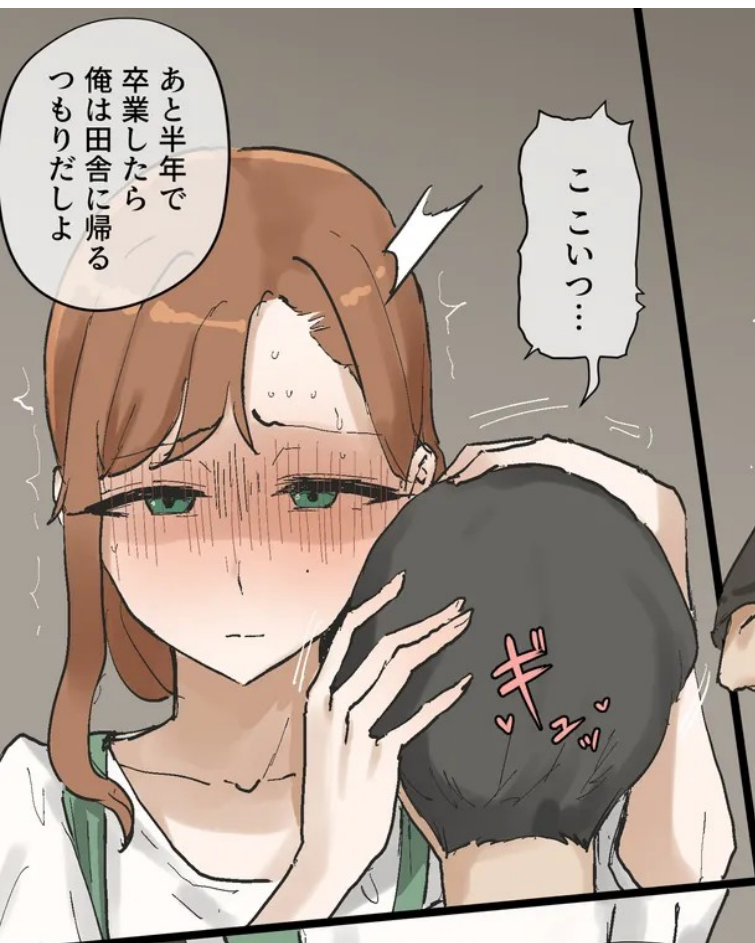
てっ
ちゃん
どう
した
の？
珍
しい
わね…

母さん
昨日は辛く
当たってごめん…

おばさんから聞いたよ
俺と親しくするなって
言ってたんだろ？

……

あと半年で
卒業したら
俺は田舎に帰る
つもりだよ



ワキッ
ワキッ

卒業まで
お前の邪魔になる
つもりもないから
安心しろよ

俺はただ
仲良くしたかった
だけなのにさ…



直接俺に言えば
よかっただろ？
ガキじゃ
あるまいし笑

男の嫉妬は
見苦しいな



#1. レイコの事情

教 員 証

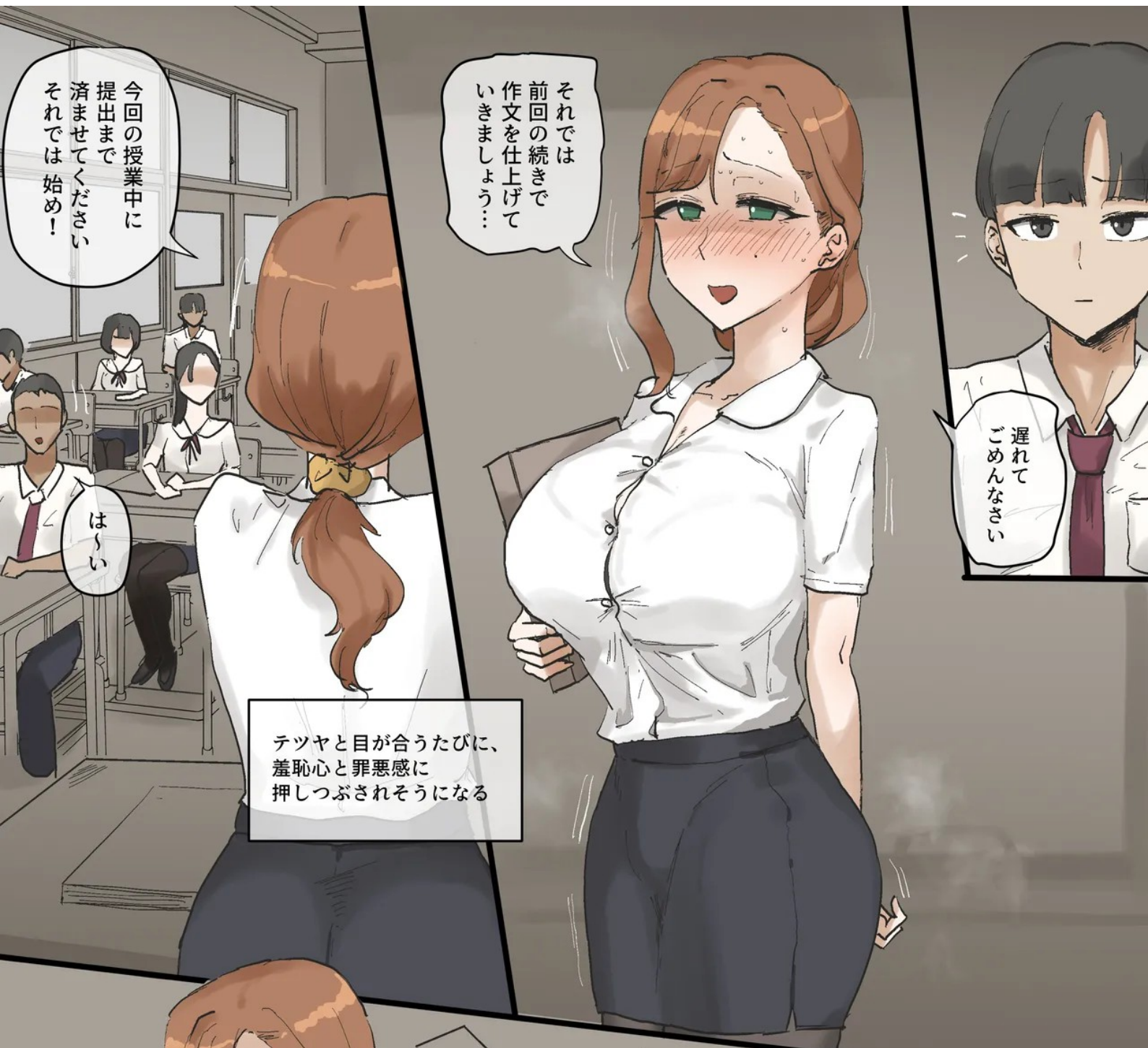


担当科目 - 現代国語

北川 レイコ



私立さくら高等学校 校長



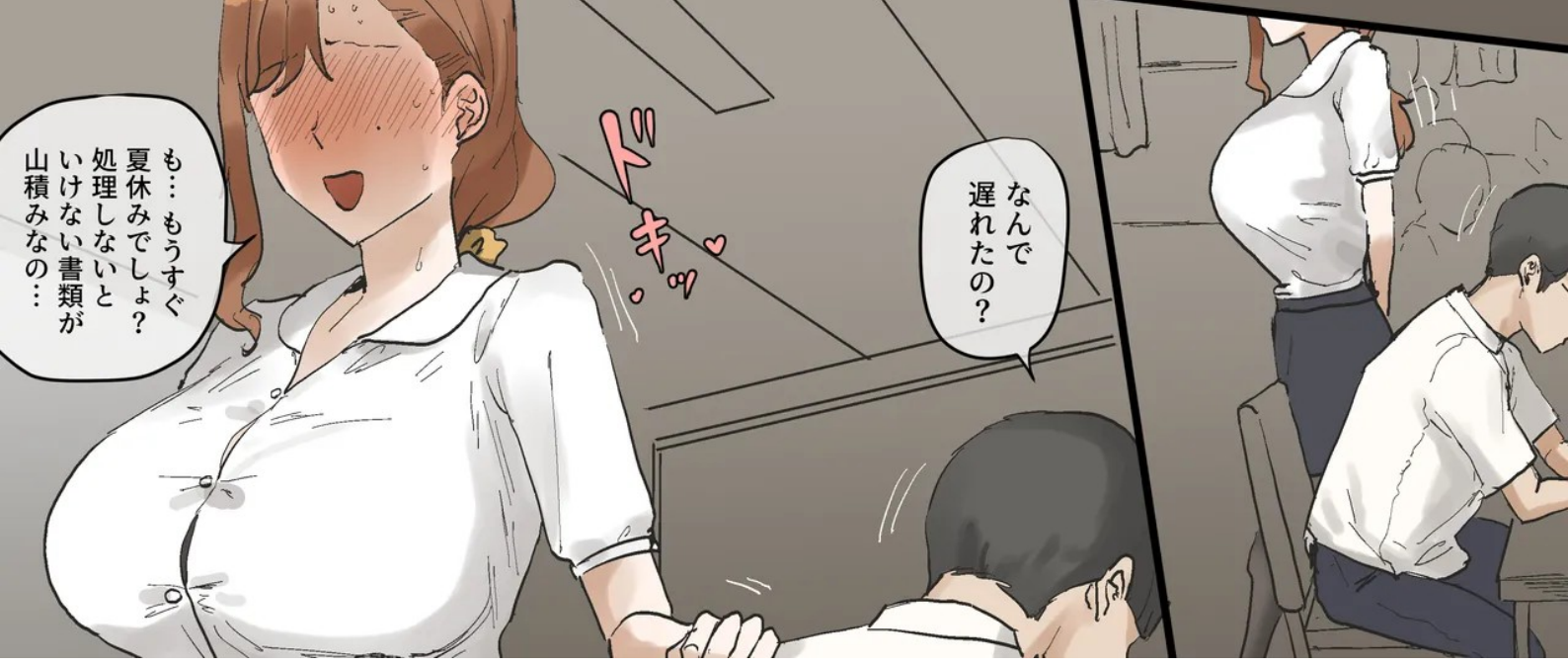
それでは
前回の続きで
作文を仕上げて
いきましょう！

遅れて
ごめんなさい

今回の授業中に
提出まで
済ませてください
それでは始め！

はーい

テツヤと目が合うたびに、
羞恥心と罪悪感に
押しつぶされそうになる



なんで
遅れたの？

も…もうすぐ
夏休みでしょ？
処理しないと
いけない書類が
山積みなの…

ドキキ♡



遅刻の反省文の提出まだか〜？
テツヤの隣で誠心誠意謝罪しろ

中出し済みのマンコも添えてな笑

こうして再び日記をつけ始めたのも…
私の責任をはっきりと思い返すためだ。



私の帰る場所を見失わないように。
私はテツヤの母なのだ。

セックスに夢中で授業に遅刻してしまい
申し訳ございません♡

リョウ君の奴隷
レイコ♡

私にとっては、
リョウとその友人たちに、
オナホールのように
扱われているときよりも、
はるかに耐えがたい時間だ。

あの子が眠ると、リョウとの
夫婦ごっこが始まる。
一緒にお風呂に入り…
セックスをして…
同じベッドで眠りにつく。

2025年 7月 XX日

今になってようやく打ち明けるが、
私はあの夜以来、
毎晩テツヤの夕食と飲み物にだけ、
睡眠薬を混ぜ続けている。

サラサラ

夫婦を演じて
いるだけでも、
亡き夫を思い出して
しまうから…

スー…
スー…

おおいレイコ
また締めまりが
良くなったな
そんなに
旦那様のチンポが
気持ちいいの？

あ… あんっ♡
はい… そっ…
好きなの♡♡
気持ちいい…♡

おおいレイコ♡
ちゃんと語尾には
あなたをつけろ
って言ったよな？
旦那様には敬意を
持たないとだろ？

は… はい…
あなたあ♡

ズッ♡
ズッ♡
ズッ♡
ズッ♡

は… は…
は… は…

あ… あ…
あ… あ…



あの子のベッドで、
リョウをあなたと
呼びながら
イってしまった
あの瞬間は…

これだけは
絶対にダメだと
頑なに拒んだが、
無駄な抵抗だった。

数日後には、テツヤが
眠っている部屋で
セックスをした。



本当に…
母としてのすべてを
捨ててしまいたくなった…



もしあの人が
生きていてくれば、
こんなことには
ならなかったのに…

そう夫を恨んでしまうたびに、
さらに激しく
全身に走る快樂が嫌い。
感じていないフリすら
できないこの体が嫌い。

あの男を見つめながら
あなたと呼ばなければ
ならない自分が嫌い。



んっ…あなた
そこ…あ
いい…あ
あなた…

あぁ…
だめえ…
うっ…

いつも息子が
寝ているベッドで
赤ちゃん作って
みようか

あぁ…
だめえ…
うっ…

顔を隠しながら、
見つかるかも
しれない危険な
行為をしている時、
私はまるで…
自分ではない誰かに
なっているような
気分になる。

2025年 7月 XX日

今回で三回目の
屋外露出プレイ…
私は次第に
妙な快感を
覚え始めた。

うはっ
雌豚ダンス笑
無駄にめっちゃ
上手いじゃん
えっろっ

ぶるんぶるん
胸揺らしてさあ…
恥ずかしくねえの？

その瞬間だけは、
私を押しつぶす
重荷は消え去って、
心も体も羽のように
軽くなる

くそっ…
もう我慢できねえ
リョウウ早く
ヤっちまおうぜ！

もうちよい待て
あと一本だけ
撮りてえのが
あんだよ

もしもあの子が
私のこんな姿を
見てしまったら…
どんな顔を
するだろう？
きつと軽蔑されて
しまっわよね…

レイコ
ちゃんとアレ
溜めてきたか？





いや...
どうでもいいのか?
今の私は私じゃ
ないんだし...

へっ...
フン!!
へっ...
へっ...

テツヤの母親は
シムにはいないから...

フシヤアア...

おいお嬢さん!
ここはトイレ
じゃねえよ
ん:どっかで
見た顔だな?



挨拶はどうした
俺が誰だか
知らねえのか?

とりあえず
あの女
よこしな

シュウジ:

すげえエロい
そんな体
忘れるわけ
ないけどなあ:
なんでもいいや
こっち来いよ
俺と遊ぼうぜ

ああ?
その金髪:
お前4組の
転校生だろ?
生意気な奴





ドグン♡

教師として大人として止めないと

やめて...

ごめんなさい...
ごめん
やめ...

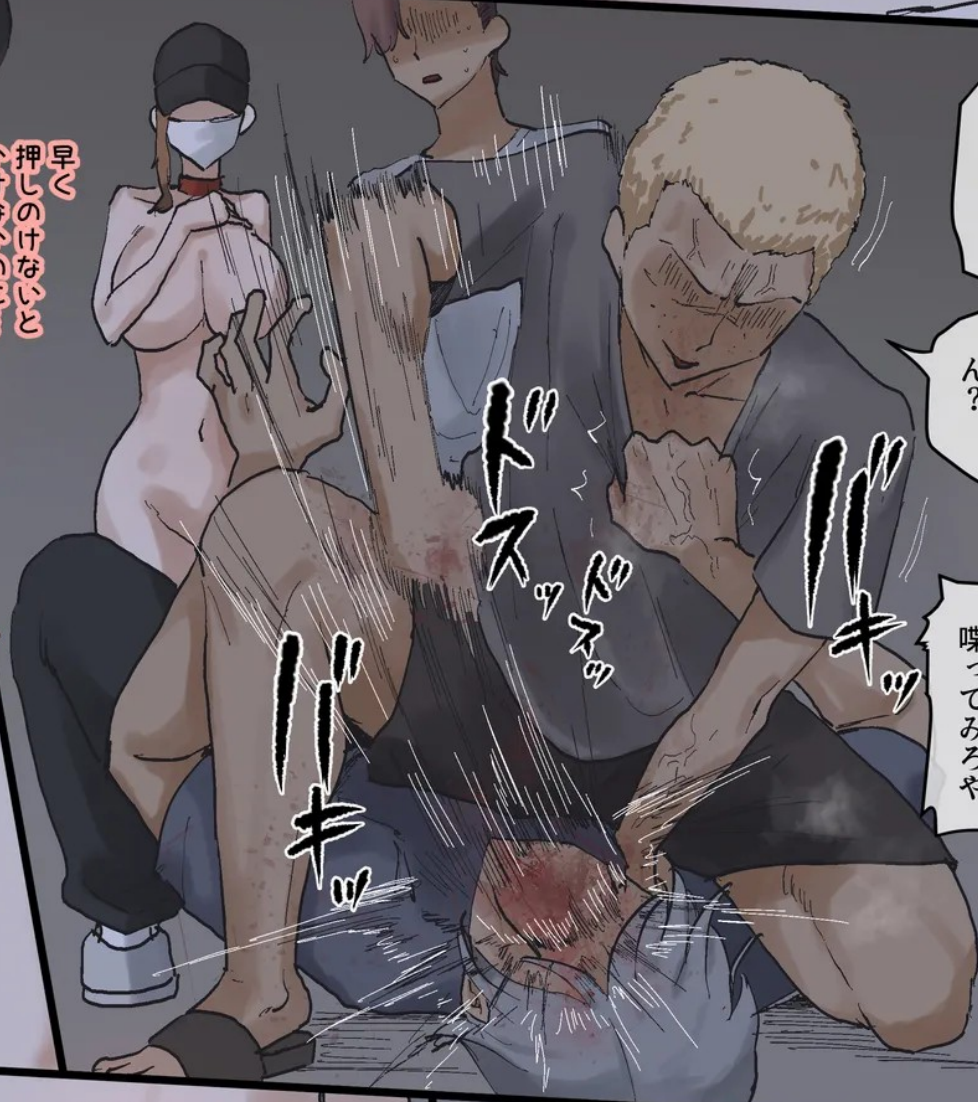


ドキ

ドキ

でも...
あと少しだけ...
リヨウ...
もっど...

早く押しのけないと
いけないのに...



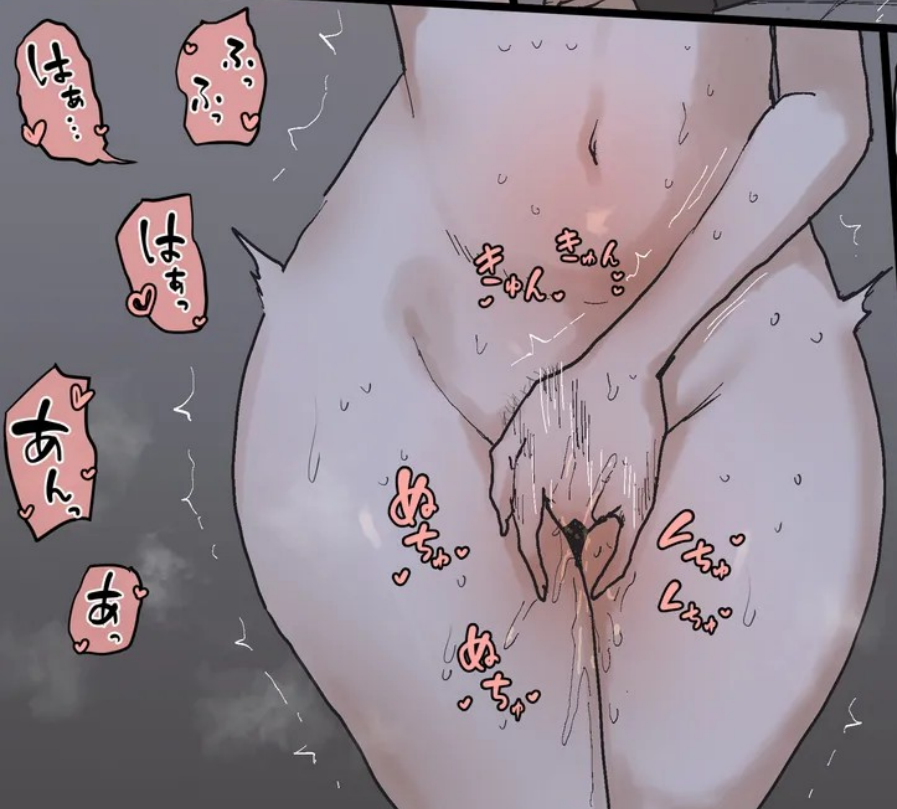
で？
お前
誰なんだよ

教えて
くれよ
ん？

さっき
みたいに
ベラベラ
喋ってみろや

ドスッ
ドスッ
ドスッ

バキ



はぁ...
ふふ...

はぁ...

あ...

あ...

ぎゅん...
ぎゅん...

ぬち...
ぬち...

しん...
しん...

おおい
リヨウ！
やめろって
死んじゃう



雑魚がっ
口の利き方
気をつけろ



はは…
フェラ上達したな
もっと真心こめて
玉もじゃぶれよ

限りなく歪み、
ねじれた独占欲。

来いよレイコ
この体が
誰のモノなのか
見せつけてやれ



それを引き立てる
ために並べられた
取り巻きのやつらと、
負け犬の雄。



ドキッ♡
あ♡♡♡
ぐにゅ♡

むじ…♡

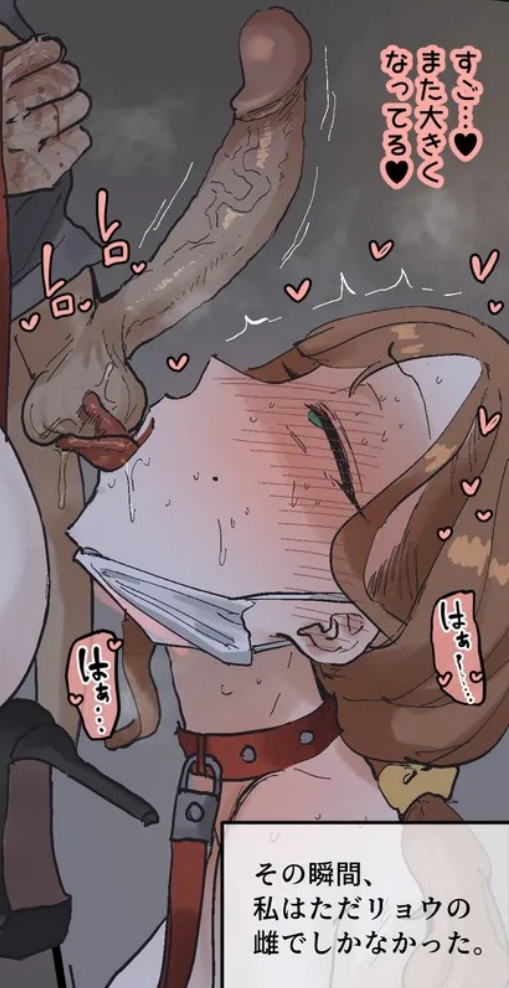


ちゅ♡♡♡
ぢゅ♡♡♡
ぢゅ♡♡♡

どうして…
…いや…
私のせいよね

そんなになるくらい
私を抱きたかったのよね♡
このたくましいおチンポで♡
息子と変わらない年齢なのに…

いつもより…
おチンポ
ずっと硬い♡



す♡♡♡
また大きく
なってる♡

はぁ…♡

夫のとは
全然違う…！
あんな弱々しい
のとは…♡
好き♡♡♡

その瞬間、
私はただリョウの
雌でしかなかった。

さまあみろ…
ほら言っただろ？
俺の言うことを
聞いておけばな…

え？
デツヤ？！

デツヤ…
笑ってるの？
どきどき

私の頭の中から
消えて！今すぐ！
いや！見ないで！

ふざけないで…
何もかも
あの父親と
お前のせいよ！

お母さんに
もう少し優しく
してくれていたら
こんなことには…
酷い子！

ああ…

あ違うの…
ごめんさい…
てっちゃん
お母さんが
悪かったの…

お母さんを
嫌いにならないで…
必ず…元に戻るから…

